

識別番号 P7
研究課題 イスラーム地域研究—課題と展望
研究代表者 私市正年(イスラーム研究センター長／外国語学部アジア文化副専攻教授／アジア文化研究所所員)
共同研究者 川島緑、赤堀雅幸(以上、外国語学部アジア文化副専攻教授／アジア文化研究所所員)、三代川寛子(アジア文化研究所客員所員)、荒井康一(アジア文化研究所共同研究所員)、高橋圭(イスラーム研究センター特別研究員)

Summary Summary
Contemporary Islamic regions share problems linked to history, religion, politics, and economics. The Islamic Area Studies program sponsored by the NIHU (National Institute for Humanities) commenced in 2006 as a network-type research program. Its goal was to carry out a comprehensive study of these problems, and Sophia University was nominated as one of its units. The Center for Islamic Studies was established in order to promote this research project, and it currently carries out joint research with other network units, such as Waseda University (which serves as the headquarters of the program), the University of Tokyo, Kyoto University, and Tōyō Bunko (the Oriental Library). The Center for Islamic Studies is composed of research groups studying on the theme of “Modern Experiences of Muslims and Their Networks”, and the topics dealt with are as follows: (1) The Social Roles of Islamic Movements Dissociated from Political Factions, (2) The Expansion and Development of Popular Islam, (3) The Realities of the Islamic Networks that Link South-East Asia, the Middle East, and Africa. Meetings and conferences are periodically held in order to discuss issues of mutual interest with researchers and students from all over Japan, and international conferences are organized in collaboration with other units.

本文

1. 本研究の目的及び背景

「イスラーム地域研究」とは、イスラームとイスラーム文明に関する実証的な知の体系を築くことをめざす新しい研究分野である。その開拓と推進のため、2006年より人間文化研究機構(NIHU)と共同で、本学を含む5つの大学・研究機関に研究拠点を設け、相互に連携しながら活動を行うネットワーク型の共同研究であるNIHUプログラム「イスラーム地域研究」が開始された。2011年4月から第2期活動が開始され、本年はその2年目にあたる。

第2期において、本学拠点では「イスラーム近代と民衆のネットワーク」を研究テーマに掲げて研究を推進している。そこで具体的な研究課題となるのは、①イスラーム運動における社会的活動、②イスラーム書を介した人と情報のつながり、③スーフィズム・聖者信仰複合によって結ばれるイスラーム的ネットワーク、の3つの個別課題である。

また、2008年から本プロジェクトが採択された文部科学省委託事業「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」の一環として、本学拠点では公募研究「イスラーム社会の世俗化と世俗主義」と拠点強化事業「イスラームをめぐる諸宗教間の関係の歴史と現状」の2つ

のテーマに取り組む研究グループも組織して研究活動を行っている。

2. 研究の方法・内容

具体的な研究方法として、まず、イスラーム運動組織の出版物、主要なイスラーム知識人の政治思想、国際認識、教育思想と教育運動、スーフイズムや民衆イスラームについて、アラビア語、マレー語などの現地語一次資料を体系的に収集・分析し、欧米言語資料も併用しつつ、これらの活動や思想の特徴を明らかにする。次に、これらの分析を通じて、西アフリカから、中東・東南アジアにまで広がるイスラームの思想・運動、民衆組織などのネットワークの実態を解明する。そして、以上の成果の上に立ち、現代社会におけるイスラームの在り方とイスラームが提起する諸問題を検討する。

研究活動は、本学拠点として市ヶ谷キャンパスに設置されたイスラーム研究センターが主体となり、研究会やシンポジウムなどの開催を通じて推進するほか、国内外の研究者や研究機関との積極的な連携を進め、ネットワークを通じた活動を展開する。

活動の成果は、①SIAS Working Paper Series（本学イスラーム研究センター発行）②SOIAS Research Paper Series（本学イスラーム地域研究機構（文科省委託事業推進部門）発行）③『上智アジア学』④イスラーム地域研究事業全体の刊行物⑤その他の出版媒体⑥本学拠点ウェブサイト(<http://www.info.sophia.ac.jp/SIAS/index.html>)など多様な媒体を通じて順次発表する。

3. 研究の現状と今後の課題

本学拠点では、以上の研究目的・方法・内容に基づいた研究活動に継続的に取り組んでおり、これまで着実な成果を積み上げてきた。2011年度については、延べ24回の研究会、公開講演会、シンポジウム、国際ワークショップなどの開催と10回の海外調査を実施し、また成果物としてワーキングペーパーとリサーチペーパーを合わせて8冊刊行した。

他方、現在「イスラーム地域研究」に課せられた最も重要な課題の一つが、チュニジア・ジャスミン革命に端を発したアラブ政変であり、その背景・要因を分析し、またこれら一連の政変が今後の中東・イスラーム地域全体の情勢に与える影響を考察したうえで、その知見を社会に速やかに公開することが求められているのは言うまでもないが、この点についても本学拠点では政変直後から様々な取り組みを行ってきた。具体的には、2011年2月18日に開催した緊急シンポジウム「アラブ世界で、いま、何が起きているのか？」をかわ切りに、現在までアラブ政変をテーマにした研究会やシンポジウムを継続的に開催している。特筆すべき点は、これらの研究会やシンポジウムでは、国内外の研究者はもちろんのこと、現地の社会運動家、ジャーナリスト、政治家など政変の当事者たちも一堂に会して、刻々と変化するアラブ情勢の今の姿を伝え、また今後の展望について活発な議論を行っていることにある。そして、このようなユニークな活動を可能にしているのは、本学拠点がこれまで地道に築き上げてきた国際的なネットワークの存在にあると言えるだろう。

今後の課題は、アラブ政変を始めとする現在のイスラーム地域の諸問題を、現状分析に留まらず、本学拠点の研究テーマとの関わりでより広い文脈に位置づけ、総合的な理解を提示することにある。本プロジェクトでは、すでに第1期の研究活動を通じてこのような総合的理解に向けた新たな分析枠組みを提示してきたが、今後はその枠組みをさらに精緻化する作業を通じてこの課題に取り組んでゆくことになるだろう。